

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園 11 月えんだより**

11 月聖句：「成長させてくださったのは神です。」

＜コリントへの信徒の手紙 第 13 章 6 節＞

風の涼しさと心地良さを感じる季節がやっと訪れた、そんな思いを持った方々も今年が多いのではないのでしょうか。子ども達も朝から外で遊ぶ機会が当たり前になりつつあり、秋の自然の恵みを与えられ、肌で感じる季節となりました。一方で、地球の温暖化による影響と言われますが、自然災害による被害は深刻な状況です。被災をされた方々に、心を寄せて祈ることも忘れてはならないと強く思います。又、世界で起こる紛争は、何度も同じ過ちを繰り返し、いつも犠牲になるのは最も弱い者となります。私達は恵みの感謝と共に苦しみや悲しみに苛まれている人々の平和を皆で祈り続けていきたいと思ひます。

さて、「子どもが成長する」と言いますが、成長とは「変化」とも言えます。体の変化のみならず、子ども達の心も精神も変化していくことが一番大きく感じるのは、今の乳児期から幼児期にかけての間であることは、保護者の皆様もよくご理解いただいていることと思ひます。その変化は、愛をもって大切に育み続けて下さる保護者の皆様やご家族、保育者のみならず、子ども達や関わる人々の触れあいや交わりより生まれることは事実です。しかし、子ども達は、一人一人、兄弟姉妹であっても興味や関心が異なり、好物も違えば、性格も異なります。正に一人一人に異なる賜物が備えられています。

私達は、遭遇する出来事に対して、何かの原因、何かの責任等と因果関係を求めようとしますし、それがより良く生きる上で大切な事は十分承知しています。しかし、私達には文明が進んだ今日でさえ、計り知れない出来事があることも理解を示す必要があるでしょう。今月の聖句は、ある国が分断の危機に陥った際に、「私は植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させて下さったのは神です。」この言葉が手紙として教会に送られたのです。個々の思いや願いを主張することよりも、神様が私達を支え導いてくださっている事を忘れてはいないのか？という問いでもありました。日本でも「お蔭様」という言葉があります。神様や仏様のご加護で、と感謝の意味でつかわれます。その真意には、人知を超えるものへの畏敬の念を抱くことです。この時代において今、必要ではないかとも思われるのです。

11 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	みつける / どれにしようかな	感謝しつつ
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> お祈りや讃美歌を通して心地良さを感じる。 生活の中で、やりたいことをじっくり取り組み、関わり合う。 神さまからのたくさんの恵みに感謝し触れて、遊びや生活の中にとり入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまがくださった恵みを礼拝や日々の生活の中で感謝する。 友だちや保育者と一緒に、何かになりきって遊ぶ楽しさを知る。 遊びの中で、思うようにならないことや自分とは違う思いがあることを経験する。又相手を思っでの行動をしようとする。
讃美歌	おほしがひかる	あなたの平和の 聖歌集増補版